

# 交通安全を 考える

4月から5月にかけて、全国的に通  
学中の児童が巻き込まれる交通事故が  
立て続けに発生しました。奈良県でも  
昨年11月〜本年4月に、交通事故が多  
発し30人の命が失われました。

失われた命は戻って来ません。自分  
の命を守るために、自分でできること  
は何か。また、地域の宝である子ども  
を守るため、地域の大人にできること  
は何か。

自動車を運転する、自転車運転す  
る、歩行する。それぞれの立場で交通  
安全について考えてみよう。



車が通らない安全な道を通って  
登校する児童たち（北小学校）

# 少しの油断が 交通事故につながる

平成23年12月、日が沈み辺りが暗くなったところに町内で自動車と自転車衝突する事故が発生しました。場所は信号のない見通しの悪い交差点でした。優先道路を走っていた自動車の運転者は、右前方の建物の裏から交差点に進入する自転車を発見。ブレーキを踏んだが間に合わず、出合頭で自転車と衝突。自転車の運転者は重症を負いました。こうした事故を防ぐ方法を考えてみよう。

## 自動車事故は、

### 追突や出合頭の事故が多い

追突事故は、交通量が多く渋滞が起こりやすい箇所で起こっています。その原因として、考えことや脇見が挙げられます。出合頭事故は、信号のない交差点で多く発生しています。その原因として、安全不確認、徐行不履行、一時不停止が挙げられます。

平成23年に県内で発生した死亡事故死者数47人のうち、23人が高齢者で、うち7人が自動車運転中によるものでした。

### 事故を起こさないための対策

- 車間距離を十分開けて運転し、特に渋滞する交差点では前の車に注意しましょう。
- 信号のない交差点では、徐行・一時停止をし、安全確認をしましょう。
- 夕暮れから夜は、ハイビームを効果的に使用するなど、歩行者の早期発見に努めるとともに、速度を控えめ

にしましょう。

- 健康状態や運転操作に不安を感じたら運転を控えましょう。
- 少しの距離でも、シートベルトを着用しましょう。

## 自転車事故は、

### 過半数が出合頭の事故

自転車の事故は、出合頭事故が過半数を占めています。急な飛び出しや夜間の無灯火などが挙げられます。

近年では、自転車と歩行者、自転車同士の事故が増えています。

### 事故を起こさない・事故に遭わないための対策

- 信号のある交差点では、信号を守り、信号のない交差点では、一時停止をし安全確認をしましょう。
- 夕方には、ライトを点灯しましょう。
- 携帯電話による通話、ヘッドホンをつけての運転、傘差しなど片手運転は、やめましょう。
- 自転車も車両です。交通標識や信号

を守りましょう。

## 歩行者事故は、子どもは飛び出し、高齢者は横断中が多い

歩行者事故は子どもや高齢者の割合が高くなっています。子どもの事故は、飛び出しによる事故が多く発生し、高齢者の事故は夜間の横断中に多く発生しています。

平成23年に県内で発生した死亡事故死者数47人のうち、23人が高齢者で、うち7人が横断中によるものでした。

### 事故に遭わないための対策

- 子どもと一緒に、自宅周辺の道路を歩き、どのようなところが危ないかなぜ危ないかを確認し、そのような場所ではどのようなことに注意したらよいかを、話し合ってみましょう。
- 高齢になると、身体機能が衰えてきます。十分な注意と、ゆとりのある行動をしましょう。
- 明るい服装に夜光反射材を身に付けるよう心掛けましょう。

## 夜間の歩行に有効な 夜光反射材の効果とは...

夜間、車のヘッドライトを下向きにした状態で運転者が歩行者を確認できる距離は、夜光反射材をつけた場合、種類や大きさ、取り付け位置などによって異なるものの、約60〜130メートルとなり、安全性が増します。

参考  
時速 60km で  
走る車は、  
2秒で  
約 33m 進む。

### ヘッドライトをつけて 人を確認できる距離

夜光反射材を装着  
約 130m

白い服装  
約 50m

黒い服装  
約 30m



interview

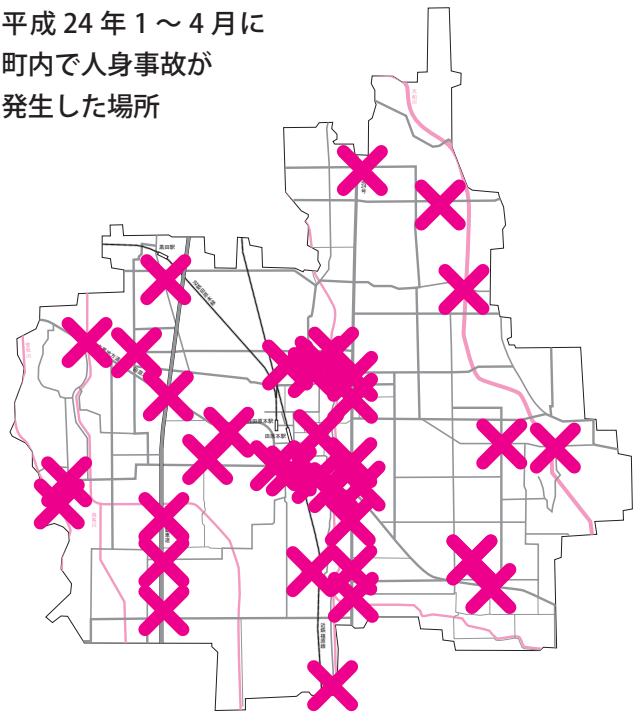
田原本町で起こる交通事故には、どのような特徴があるのだろうか。  
田原本警察署交通課長の森本修造さんに話を聞きました。

本年1月から4月末までの間に、田原本警察署管内で53件（うち38件が田原本町内で発生）の人身事故が起っています。そのうち31件は、出合頭や追突でした。

田原本町では、国道24号や県道桜井・田原本・王寺線などの主要道路で追突や直進車と右折車の衝突事故、町道で出合頭の事故が多く、特に千代北の交差点から半径2キロの範囲内に交通事故が集中しています。

その主な原因の一つに、「携帯電話の画面を見ていて前の車に気付かなかった」「携帯電話での通話に集中してしまい、前を見ていなかった」など、携帯電話の使用による脇見運転があります。このようなほんの少しの気の緩みが交通事故につながってしまいます。また、近年では自転車の運転者のマナーが問題視されています。具体的に挙げると、携帯電話を使用したりヘッドホンをつけたりしての運転や夜間の無灯火、一時不停止などです。

平成24年1～4月に町内で人身事故が発生した場所



自転車も車両ですので、被害者になるだけでなく加害者にもなります。例えば、携帯電話を使用しながら運転し、安全確認をせずに交差点に進入した際に、車と衝突して大ケガをすることがありますし、歩行者と衝突して大ケガをさせてしまうこともあります。

また、夜間にライトをつけずに自転車で行くと、相手から見えづらく危険ですので、必ずつけて走行してください。より安全性を高めるために夜光反射材を付けることもおすすめします。交通事故はちょっとした安全確認を

怠ると起こってしまいます。逆に言えば、ちょっとした安全確認ができていれば、未然に防げるものです。ドライバーの皆さんは、初心を忘れずに安全運転を心がけてください。



田原本警察署交通課長  
森本修造さん

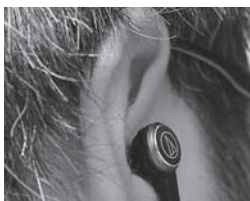
5月1日から  
自転車の罰則が強化されました

今まで危険と思われていた行為が禁止となりました。

携帯電話やヘッドホンの使用は  
5万円以下の罰金です



携帯電話の操作に気を取られて、自動車や歩行者に対する注意力が散漫になり、事故につながります。



音楽を大音量で聴いていると、近づいてくる自動車の音やクラクションに気づかず、事故につながります。

自転車での加害事故例

女子高校生が夜間、携帯電話を操作しながら無灯火で走行中、看護師の女性と衝突しました。女性には重大な障害が残りました。この事故での賠償金は5000万円。自転車も交通事故を起こせば責任を問われます。



▲国道 24 号を渡る子どもたち。子どもの安全を守るため、多くの大人が横断を見守る。

命	を	守	る
地	域	の	つ
な	が	り	

町内では、幼稚園や学校と地域が協力して子どもの安全を守る取り組みが行われています。そのなかで北小学校区の学校ボランティア「子どもを犯罪から守る会」が、子どもの安心・安全な学校教育活動に貢献する優れた活動を行う団体として、平成23年に文部科学大臣賞「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞しました。そこで、北小学校区で行われている子どもたちの安全を守る取り組みを取材しました。

### 発足7年目を迎える 子どもを犯罪から守る会

北小学校区の子どもたちは11の部団で集団で登下校します。そこには、子どもを交通事故や犯罪から守るため、必ず「子どもを犯罪から守る会」の会員や保護者が付き添います。

平成16年、奈良市に住む小学1年生の児童が、下校途中に誘拐され殺害されるという悲しい事件が発生しました。こうした事件や交通事故に子どもたちが遭わないよう地域で見守っていく組織を作れないものかと検討を重ね、平成18年に「子どもを犯罪から守る会」が結成されました。

同会の会長である村井偉夫さんは、



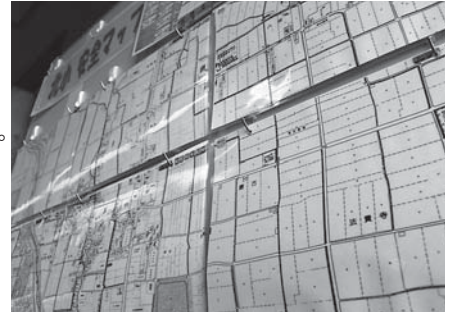
子どもを犯罪から守る会会長  
村井偉夫さん

「あくまでボランティアであるということ为前提に、自主性があり継続性のあるものにしていく必要があります。そこで、北小学校区のすべての自治会長が中心となって結成することになっ



◀北小学校前の横断歩道。子どもたちが横断する際に回転灯が赤く光り、車の運転者に知らせる。

▶北小安全マップ。登下校の通学路や危険箇所の色が塗られている。子どもたちの動きが分かる。



◀子どもを犯罪から守る会の会員は、緑色のベストと帽子を着用して、子どもたちの安全を見守る。

◀見通しの悪い危険な交差点では、必ず会員が立っている。子どもたちは、安全確認をして交差点を渡る。

▶低学年の子どもの手をつないで歩く。保護者の那須はるみさん（小阪）は「子どもたち自身が考えたルールなんです」と子どもたちの工夫を話す。



北小学校校長  
岩田成弘さん

たのです」と話します。言葉通り、「子どもを犯罪から守る会」は結成から7年目を迎え、当初の会員数35人が現在では74人になっています。

**地域ぐるみで、死角をなくす  
ことからスタート**

主に登下校を中心に子どもたちを見守っていくため活動を始めた「子どもを犯罪から守る会」は、子どもたちの通学で危険と思われる場所や地域の目が向かない場所などを地図に書くことから始めました。村井さんは、「子どもたちの目線で通学路を歩くと、普段見えない部分が見えるようになってきました。また、子どもたちに対する関心が一層増しました」と、その効果をお話します。

北小学校では年に5回、町教育委員会や警察、民生委員、保護司、PTAなどさまざまな関係機関が集まり、意

見交換が行われています。ここでは、通学路の危険箇所や地域での取り組み、子どもたちの様子などが話し合われ、より安全に子どもたちが通学できるようにするとともに、十分に相互理解を図っています。

**地域と子どもをつなぐを  
深めることが重要**

北小学校区の自治会には、それぞれ子ども会が属しています。そのため、地域の行事があると子どもたちも参加することができ、世代間交流がさかんに行われています。北小学校校長の岩田成弘さんは、「子どもたちと地域の方々とのつながりが強く、放課後や土曜日、日曜日などの休みの日でも子どもたちを見守ってくださいています。こうした環境があるからこそ、交通事故や犯罪のない地域づくりにつながっているのだと思います」と子どもと地域をつなぐの重要性を話します。

村井さんは、「今後も、自治会が中心となって会の運営を進めていき、会員数100人を目指していきたいと思えます。危険なことはいっ起こるかわかりません。ですから、この組織を継続しながら子どもたちの安全を守っていくために、もう一度子どもたちの通学路を再確認していくことが大切だと考えています」と力強く締めくくりました。